

後期始業礼拝

聖書 コリントの信徒への手紙 II 4章18節 (新約聖書 330 頁)

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

心の進化

夏休みは部活動の練習や合宿、コンクールや大会の出場、また家族や友だちとの海や山、海外への旅行などで新しい出会いに恵まれ、思い出が残ったことだと思えます。新しく出会った本からも感動と共に、未知の世界が広がり、新しい世界を見つけた人もいます。

こうした経験から、思春期の頃は、秋の訪れと共に、いつの間にか口数が少なくなり、着る服や肌身につけるもの、食べるものの好みまで変わり、少し背伸びをしながらも、自分でも気づかないうちに自分の世界が広がり、言葉にするのは難しいですが、目に見えない心は成長し進化していきます。

人間が目に見えない世界を探求したのは、例えば、生物学のミクロの世界では、17世紀、オランダのアントニー・レーウエンフックという人が「顕微鏡」を発明した頃からだそうです。つまり小さすぎて目に見えないミクロの世界が解明され始めたのです。そして、それから約350年後、一人の日本人研究者が高度に進化した顕微鏡で生命の謎に挑戦し、まだ誰も発見していなかった遺伝子の一つを解明しました。『生物と無生物のあいだ』、『動的平衡』などの著書で知られている生物学者、青山学院大学で研究、教育をされている福岡伸一先生です。

その後、さらに高級車のポルシェが3台買える研究費を一匹のマウスに注ぎ研究を続けましたが、研究はそこで行き詰まりました。しかしそこから先生の新たな生命の探究が始まりました。それは細胞や遺伝子の解明に走り、機械的に生命探究する理系から、生命とは何かを物語る文系の生命探究でした。そのために青山学院大学へ移ったのでした。

先生はとてもユニークなことをおっしゃっています。「一年前のわたしと、今日のわたしは別人です。物質レベルではほとんど変わっていません」、「人間は身体（こたい）ではなく、流体です」、そして少し尾籠な話で申し訳ないのですが「うんちは食べ物のカスではありません。うんちの半分は自分の捨てられた細胞です」と言うのです。「人間はどうして毎日ごはんを食べなきゃいけないのか」、「うんちは食べたものが出ているわけではありません。食べ物の半分は燃えて作り替えられ、入れ替わっています。交換されています」と言うのです。そして「生命は自動車のような機械ではありません。生命はガソリンで動く自動車と同じではありません」と言うのです。生命そのものが毎日リニューアル（再生）され、成長し進化しているというのです。

ですから、私は人の心も同じように成長し進化していると言えるのではないかと思いました。実際、そのような研究もありました。人の心も成長し進化します。日々の生活、旅、音楽、芸術、映画、小説、歴史、そして人や自然との出会いと学びを通して、新しい世界が人の心に広がります。私たちは生まれてから出会いと別れの中で、心も変化し、成長し進化を続けるのです。

人の心は一人一人違い、絶えず変化しています。少し不謹慎な言い方もかもしれませんが、どうかその変化を楽しんで下さい。遊ぶようにその変化の中で学んで下さい。夏の心の進化は、この秋の学びの中で花が開き実となります。その進化を喜びと感謝にして収穫してほしいと思います。まだ知らない自分と出会い、まだ知らない世界が、皆さんの前に開かれ、ますます成長し進化しますようにと祈っています。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは、私たち英和に目に見えないものを見つめることの大切さを教えてください。学校生活を通して、人や自然との出会いと学びを通して、どうか私たちに目に見えないものの尊さ、喜びと感謝をお与え下さい。どうか、後期の学びの上にもあなたの光を照らし歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。アーメン